

ひょうごの病院



国産手術ロボ導入へ

88

神戸大病院国際がん医療・研究センター

院長 味木徹夫 (1988年神戸大卒、2002年米テキサス大MDアンダーソンがんセンター留学、14年神戸大病院医療の質・安全管理部長、17年神戸大医学部教授、同大病院国際がん医療・研究センター長/専門分野=肝胆膵外科、日本消化器外科学会指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医)

電話番号 ☎078・302・7111

URL <http://www.hosp.kobe-u.ac.jp/icrc/>

開院 2017年 **病床数** 120床

医師数 男性9人

診療科 食道胃腸外科、肝胆膵外科、乳腺内分泌外科、呼吸器外科、整形外科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、泌尿器科、婦人科、形成外科、麻酔科、消化器内科、放射線科

得意な診療 がん細胞だけを光らせる薬剤を用いたぼうこうがんの内視鏡手術107件、内視鏡で早期の消化管がんをはがし取る手術116件、前立腺がんの放射線治療における副作用を軽減させるスパーサーなどの留置152件 ※2019年実績

病院の特色や強み 神戸大病院の分院で、2019年度の手術総数は2187件。神戸医療産業都市に立地する利点を生かして産官学連携や医工連携を進め、革新的な医療機器の開発・研究を進める。20年度には国産初の手術支援ロボットの導入が決まっており、現在高いシェアを占める「ダビンチ」に替わる技術的・経済的に優れた治療を目指す。

病院の理念や展望 ロボット開発などの民間企業や、神戸陽子線センターなどの専門施設などと連携し、次世代の医療を探る研究機関としての役割も意識する。例えば、これまで経験に頼ってきたベテラン医師の手術テクニックをデジタル化し、指導ソフトの開発を目指したり、患者から採取した組織を使って診断や治療していたのを血液や尿で簡便に行えないか検討したりしている。通信技術を活用した遠隔手術も模索する。また、神戸医療産業都市における国際交流の拠点となるよう、外国人医療従事者向けの研修なども開いている。

味木徹夫院長



神戸市中央区港島南町1
①ポートライナー医療センター駅から徒歩2分